

6. 乳用牛改良目標（農林水産省、目標令和12年度）

(1)乳用雌牛の能力に関する表型値目標数値（ホルスタイン種全国平均）

現在	乳量 8,636kg (9,776kg)	乳成分		
		乳脂肪 3.90%	無脂乳固形分 8.76%	乳蛋白質 3.28%
目標 (令和12年度)	9,000~9,500kg (10,000~10,500kg)	現在の乳成分率を 引き続き維持		

注1：「乳量」の上段は、全国の経産牛1頭当たりの年間平均乳量に基づく数値である。

注2：「乳量」の下段の()内は、牛群検定参加農家の平均値(搾乳牛1頭当たり305日、2回搾乳の場合)に基づく数値である。

注3：「乳成分」の数値は、年間平均値である。

(2)乳用雌牛の能力に関する育種価目標数値（ホルスタイン種全国平均）

現在	乳量 +58.6kg/年	乳成分		
		乳脂肪 +2.4kg/年	無脂乳固形分 +5.1kg/年	乳蛋白質 +2.0kg/年
目標 (令和12年度)	現在の改良量を引き続き維持			

注：目標は、令和元年度時点の評価方法に基づく乳量及び乳成分の遺伝的能力の向上を示すものであり、令和12年度までの10年間の改良量の年当たり平均量である。

7. 酪農経営指標（農林水産省、目標令和7年度）

	1	2	3	4	5	6	
【経営形態の特徴】	乳量を維持しつつ、生産性の高い草地への集約放牧により、ゆとりを確保した家族経営	搾乳ロボット等により省力化しつつ、収益力の向上を図り夫婦2人で可能な範囲で規模拡大を図る家族経営	飼料生産・調整や飼養管理の省力化・機械化等による省力化・効率化を通じ、規模拡大を図る大規模法人経営	コントラクターの活用等により省力化しつつ、生産性の向上を図り、持続化・安定化を実現する家族経営	搾乳ロボット等により省力化しつつ規模拡大を図るとともに、管理技術や受胎制御技術を活用した効率的な乳用牛生産と畜舎・牛舎を併用し、収益性の向上を図る家族経営	経営連携により経営の特長性を確保する大規模法人経営・農家のゆとりを確保し収入を増加	家族経営・大規模法人経営・農家のゆとりを確保し収入を増加
【立地条件】	土地条件の制約が小さい地域(主として北海道)	土地条件の制約が大きい地域(主として都府県)	土地条件の制約が大きい地域(主として都府県)	土地条件の制約が大きい地域(主として都府県)	土地条件の制約が大きい地域(主として都府県)	土地条件の制約が大きい地域(主として都府県)	
【土地条件】	牧草地主体(1戸1法人も含む)	畑主体(1戸1法人も含む)	畑主体(1戸1法人も含む)	畑又は水田(1戸1法人も含む)	畑又は水田(1戸1法人も含む)	畑又は水田(1戸1法人も含む)	
【経営形態】	家族(1戸1法人も含む)	家族(1戸1法人も含む)	法人	家族(1戸1法人も含む)	法人	法人	
地域連携プログラムの位置付け	—	—	—	—	—	—	
地域連携で期待される効果	—	—	—	—	—	—	
【飼養形態】	経産牛800頭	経産牛100頭	経産牛500頭	経産牛40頭	経産牛100頭	経産牛200頭	
飼養方法	つなぎ	フリーストール	フリーストール	つなぎ	フリーストール	フリーストール	
【新技術の実装】	型取ユニット自動搬送装置(CT等)を活用した草場管理技術	自動給餌機・搾乳ロボット・発情発見システム・分娩監視装置	搾乳ロボット・自動給餌機・発情発見システム・搾乳ロボット(ローナー型)	白忠式配管車分娩監視装置	自動給餌機・搾乳ロボット・型取ユニット自動搬送装置	自動給餌機・搾乳ロボット・型取ユニット自動搬送装置	
【外部化】	酪農ヘルパー	育成牛預託施設・TMRセンター・酪農ヘルパー	コントラクター	育成牛預託施設・コントラクター・酪農ヘルパー	育成牛預託施設・TMRセンター・酪農ヘルパー・キャトルステーション(和子牛哺育)	育成牛預託施設・コントラクター	
給与方式	分離給与	TMR給与	分離給与	分離給与	TMR給与	分離給与	
牧草利用(牧草利用率)	放牧(39.0ha)	—	—	—	—	—	
【牛】	経産牛1頭当たり乳量 8,100kg	8,900kg	9,200kg	8,900kg	9,200kg	9,400kg	
更新産次	4.2	4.0	4.0	3.7	3.7	3.7	
【飼料】	作付体系及び収穫 混播牧草 (4,000kg/10a)	【TMRセンター】 混播牧草 (4,000kg/10a) 青刈りとうもろこし (5,700kg/10a)	【コントラクター】 混播牧草 (4,000kg/10a) 青刈りとうもろこし (5,700kg/10a)	【コントラクター】 混播牧草 (4,000kg/10a) 青刈りとうもろこし (5,700kg/10a)	【TMRセンター】 イタライセンター 混播牧草 (4,000kg/10a) 青刈りとうもろこし (5,700kg/10a)	【コントラクター】 青刈りとうもろこし (5,700kg/10a)	
作付面積(畑・圃場) 単収利用率含む	53ha(53ha)	48ha(48ha)	218ha(218ha)	8ha(8ha)	8ha(16ha)	18ha(36ha)	
購入飼料	—	—	—	稲WCS	稲WCS・飼料用米	稲WCS	
飼料自給率(飼料自給率)	70%	70%	70%	50%	50%	50%	
粗飼料給与率	70%	70%	70%	50%	50%	50%	
経営内率(飼料自給率)	10割	10割	10割	5割	5割	5割	
【労働】	総労働時間 (主たる従事者の労働時間)	5,450時間 (1,900時間×2人)	4,200時間 (1,900時間×2人)	3,420時間 (1,900時間×2人)	14,480時間 (2,000時間×4人)	4,050時間 (2,000時間×2人)	3,600時間 (1,800時間×2人)
雇用者	常勤雇用1人	常勤雇用1人 臨時雇用1人	常勤雇用1人 臨時雇用1人	常勤雇用3人 臨時雇用1人	—	常勤雇用5人 臨時雇用1人	
経常	粗収入 6,880万円	2,400万円	9,330万円	46,470万円	4,600万円	11,520万円	
経営費 (うち雇員労務費)	5,270万円 (300万円)	2,000万円 (380万円)	7,510万円 (—)	42,690万円 (1,180万円)	3,540万円 (—)	8,820万円 (—)	
農業所得	1,610万円	400万円	1,820万円	4,050万円	1,060万円	2,710万円	
主たる従事者 1人当たり所得	810万円	400万円	910万円	1,010万円	530万円	1,350万円	
生産性	乳・糞尿管理に 関する労働時間(標準 1日当たり) / 現場 時間対産次	68時間 (66%)	34時間 (37%)	29時間 (34%)	101時間 (61%)	36時間 (43%)	85時間 (65%)
労働時間対産次 時間対産次	82円 (81%)	84円 (101%)	93円 (86%)	99円 (85%)	106円 (79%)	106円 (85%)	

(令和2年3月現在)